

橿原市観光基本計画（素案）パブリックコメント回答

No	素案段階（パ ブコメ時）の ページ数	計画確定版で のページ数	意見内容	回答（市）
1	p.1	p.1	定住人口の増加とうたいながら、観光による金儲けを中心としたことしか書かれていない印象を受ける。全体に通底する話なので、商売やイベントの活性化以外での観光産業促進のメリットを抽象的に書いて頂きたい。例えば、観光でどのように定住人口が増えるのか。観光産業の発展と郷土愛の醸成だけでは、それしか仕事のない場所に大学卒業後に戻っては来ない。例えば、観光で橿原市を訪れた結果、同市に家族で引っ越しをするといった定住促進の形態を例記すべきではないか。この章以降、日帰り客の家族連れへの言及があまりないので驚いている。日帰りで来れる客は、引っ越しをする可能性がある予備軍と捉えて積極的におもてなしをしていくべきではないだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ご意見のとおり、観光産業の発展と郷土愛の醸成が直ちに定住人口の増加に繋がるものではありません。しかしながら、観光振興により本市来訪のきっかけを設け、また伝統的行事などを通じたまちづくり・地域づくりにより市全体の活性化を考えています。 観光客の増加や自分が住むまちがメディア等に取り上げられることは、まちへの誇りと郷土愛の醸成に繋がります。住民自らがおすすめしたいまちになっていくことで、クチコミ等によるシティセールスにも通じていくものと考えています。 決して日帰り客・家族連れを軽視している訳ではなく、宿泊客と今井町の訪問者の増加をフェーズ1の重点項目としていのは、観光消費額と市内及び飛鳥地方への周遊客の増加に波及する効果が高いという認識から設定しているものです。
2	p.2	p.2	フェーズが三年毎になっておらず、年度ごとの決算委員会での検証が難しくなるのでフェーズは年で切るべき	<ul style="list-style-type: none"> 毎年度末に進捗について有識者による審議・評価を行う予定であり、フェーズ1の進捗・達成状況に応じフェーズ2・3の期間について設定しますが、いずれにせよフェーズの単位は年度単位とする予定です。
3	p.13～16	p.92～95	観光客動向の中で宿泊減っていると読めるのにその下のグラフでは増えてると主張している。リピート率は母数がバラバラなのでそれほどの有意差はないのでは？つまりリピーターが増えるとしたらまだまだこれからなのでは？満足度についても中身がわかりにくい。有意差があるとは思えない。	<ul style="list-style-type: none"> 奈良県観光客動態調査において、全数に対する宿泊客割合については若干落ち込みが見られるものの、宿泊客数はH26→H27は2,000→2,245と、また、観光庁「宿泊旅行統計調査」においても宿泊客数はH26→H27は2,270→2,553と、いずれも絶対数では増加していることから、宿泊客数については増加傾向と判断しています。 奈良県インバウンド調査結果に基づくリピート率や満足度調査についても、統計分析の専門家による指導・見解も仰いでおり、統計的に有意な調査結果であると考えます。
4	p.19～55	p.3～40	第3章橿原市観光の現状と課題は長すぎて基本計画には適さない。	<ul style="list-style-type: none"> 各種調査結果及び分析は、第4章以降における具体的な計画策定の上で重要な根拠となるため本編に記載しており、また、本計画は、データと根拠に基づき立案・実施することを主眼としていることから、割愛は困難であると考えます。
5	p.19	p.3～40	なぜ市営プールが項目に入っていないのか。「28」（2月8月）と言われる客の少ない時期に相当な来客があるので、これを入れないと考察の結論がずれてしまうように思う。	<ul style="list-style-type: none"> 橿原市総合プールは、昆虫館と同様にファミリー向け、若年層向けの貴重な観光施設であるため追記します。
6	p.19	p.3	瑞花院、子部神社、十市城跡、十市御懸座神社、植山古墳、菖蒲池古墳、一町遺跡、稲代坐神社など、市北西部・北東部・一町周辺の遺跡も追加して、市内に満遍なく観光資源があることを示していただきたい。 また、世界遺産登録資産群、重要文化資源、大和三山等は太字で示して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> お示しいただいております寺社・古墳等は、いずれも貴重な文化資源であり、観光資源として認識していないものではありませんが、本計画は、観光地を網羅することを目的とするものではないため、代表的なもののみを記載しています。そういった観点から、植山古墳及び菖蒲池古墳は市観光パンフレット等でも紹介している代表的な観光地であるため、本計画に追記します。
7	p.19	p.3	古事記、日本書紀、万葉集も追記してください。 古事記、日本書紀、万葉集にかかる観光資源は橿原市が誇れる観光遺産である。	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり、古事記、日本書紀及び万葉集に係る観光資源は本市が誇れる観光遺産であることは間違いありませんが、本項目は、本市における代表的な観光関連資源を個別具体的に記載するものであるため、記載していません。（大和三山や藤原宮跡などは、記紀万葉に関連しているという意味合いにおいても本項目に取り上げているものです。）
8	p.19	p.3	初詣、紀元祭、おおみそかを追記してほしい。 「日本人の心」である。	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の行事・祭事に際し、本市へ多くの来訪者があること、またその重要性は認識していますが、ここでは、全国的な年中行事ではなく本市に固有の伝統的行事や祭事を記載しています。
9	p.19	p.3	観光資源や行事を実施している組織に関する分析がない。これらの組織に今後とも活躍してもらい、さらに多様化することが必要であろうが、分析がないので対策が立てられない。 事業所や関連組織が抱えている強みや問題点の分析がほしい。	<ul style="list-style-type: none"> p44 (3)自立した「民」を後押しする連携においても記載しておりますが、本計画におきましては、市民・事業者主体の自立した活動の活性化が観光振興の主眼であると考えており、そのためには、ご意見のとおり、事業所や関連組織が抱えている強みや問題点の分析が必要であることは論を俟ちません。しかしながら、今回の調査及びその分析を通じ、いまだ上記の分析に至るまで行政と各組織との関係性を構築できていないことから、本計画内には当該分析結果を掲載できておりませんが、本計画を実施・遂行していく中で、分析していきたいと考えます。なお、p.11におきまして、市内の主要な観光施設（動向調査調査地点）につきましては、分析をしています。
10	p.21	p.5	平成27年 ①観光入込客数の推移 458.3万人 ②宿泊客数の推移 154,932人 ①：②=30：1 宿泊比率は3%である。 p.23の観光客の宿泊の有無は、日帰り77.6%、宿泊16.0%であり、p.21の割合と整合性が無い。 16%が宿泊客数とすると県内での宿泊3%であるならば、13%は橿原市以外で宿泊となり宿泊者の7割は市外での宿泊となる。	<ul style="list-style-type: none"> p.5は市内宿泊施設での宿泊客の推移で、p.8の宿泊客の割合は動向調査データを記載しています。p.5は市内宿泊施設での宿泊客には観光利用以外のビジネス利用や団体旅行も含んでいるため、p.8と直接的に整合するものではありません。
11	p.21	p.5	橿原市観光客数の根拠資料が不明	<ul style="list-style-type: none"> 本市の観光入込客数には主要観光施設の訪問客数と市内のイベントへの参加者数が加算されています。具体的には、橿原神宮、橿原考古学研究所附属博物館、奈良国立文化財研究所藤原宮跡資料室、今井町まちなみ交流センター、歴史に憩う橿原市博物館、橿原市昆虫館、おふさ観音、こども科学館、橿原市藤原京資料室、八木札の辻交流館、春の神武祭、大規模集客イベントの合計数であり、主要観光施設の協力を得て本市が集計し、奈良県に報告しているものです。 宿泊客数につきましても、本市が市内宿泊施設へ宿泊客数の調査を実施しています。ご協力いただいております施設は、橿原ロイヤルホテル、橿原オークホテル、橿原観光ホテル、大和橿原シティホテル、あすかロードユースホステル、嘉雲亭、ビジネス観光ホテル河合、ビジネス旅館錦龍、奈良県立橿原公苑、今井庵楽の10施設です。

No	素案段階（パ ブコメ時）の ページ数	計画確定版で のページ数	意見内容	回答（市）
12	p.22	p.7	宿泊客の目的が不明。仕事も含まれるのではないかと年齢別もざっくりしすぎ。仕事聞いて正社員と公務員が多いのは、出張じゃないのか？注目すべきはその点を除いた部分ではないか？男性は退職後、女性は主婦の人が来る、っていうのが本来捉えるべき観光の動向では？家族の動向も考察したのだろうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・動向調査については市内主要観光施設において、個人観光客を対象に実施しています。 ・宿泊客調査では、ビジネス利用客を除外していませんが、主な宿泊客がビジネス利用である宿泊施設は調査対象としていないため、大きな偏りはないものと考えます。 ・動向調査、宿泊調査ともに旅行形態や同行する方についても回答いただき、それらの内容を踏まえて分析いたしました。
13	p.22～34	p.7～33	サンプルの取り方が統計平法に合っておらず参考資料としての価値が低いように思う。この調査についての数値はすべて資料編として最終章にまとめた方が良いのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> ・調査手法につきましては、統計学の専門家に監修いただいた上で実施しているもので、サンプル数が少ないものもありますが、統計上問題はありません。 ・これらの資料は、第4章以降における具体的な計画策定の上で重要な根拠となるため本編に記載しており、また、本計画は、データと根拠に基づき立案・実施することを主眼としていることから、最終章で総括することは困難であると考えます。
14	p.25	p.10	魅力的な宿泊施設観光施設があるから、立地がいいから、っていう選択肢を選んでる人がいることは無視しているのだろうか？ここが大事なのではないかと？さらに、その他の中身が分からない。具体的な内容があるのではないだろうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・精査の上、修正します。
15	p.26	p.11	平成27年観光入込客数458.3万人であり、橿原神宮370万人、おふさ観音30万人、昆虫館、樫考研で13万人強とすると、これだけで410万人強になる。上記以外の観光客は年間50万人弱となるが、誤っていないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の箇所において引用する入込客数は、本市が集計する観光入込客数調査の結果に基づいており、主要観光施設の訪問客数と市内のイベントへの参加者数が加算されています。具体的には、橿原神宮、橿原考古学研究所附属博物館、奈良国立文化財研究所藤原宮跡資料室、今井町まちなみ交流センター、歴史に憩う橿原市博物館、橿原市昆虫館、おふさ観音、こども科学館、橿原市藤原京資料室、八木札の辻交流館、春の神武祭、大規模集客イベントの合計数であり、主要観光施設の協力を得て本市が集計し、奈良県に報告しているものです。
16	p.26	p.14	N値とアンケート数が違うのは問題。	<ul style="list-style-type: none"> ・注記の表現について、誤解のないように修正します。
17	p.26	p.11	それぞれの客の集計方法がバラバラなので参考資料としてしか使えないのではないかと。おふさ観音はツアー客がパンフを取ることはないのか？また、昆虫館はリピーターの工夫が必要と書いてあるが、この懸念はどこからきているのか？不明。	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の趣旨は理解できますが、ここでは、観光庁の定める「観光入込客統計に関する共通基準」に基づき奈良県が実施する観光地点等入込客数調査の基礎となる数値を使用しており、現時点で公式に利用できる入込客数としては唯一のものといえ、現状でこの数値を利用せざるを得ないと考えています。なお、同基準におきましても各観光地点等における入込客数調査の実施方法としましては、観光地点の管理者やイベントの運営者に確認するものとされています。 ・昆虫館は来場者が若年層・ファミリー層が中心であり、他の観光施設を絡ませた周遊が少ないため、他の観光施設に周遊してもらう工夫が必用であるという意味で「リピーター確保」と記載しています。
18	p.27	p.12	昆虫館の圧倒的な若者層への訴求力をここは明記して頂きたい	各地点の特徴について、調査結果を簡潔に説明したものととして、現状の記述で十分であると考えます。別紙調査結果報告書や調査結果データにつきましては、インターネット等での公開を検討しておりますので、そちらでご確認いただければ幸いです。
19	p.27	p.12	県内からの客と県外からの客とでニーズが割れてることをもっとしっかりと言及すべき	各地点の特徴について、調査結果を簡潔に説明したものととして、現状の記述で十分であると考えます。各地点の認知度等については、別途WEB調査を実施しております。そちらを掲載した別紙調査結果報告書や調査結果データにつきましては、インターネット等での公開を検討しておりますので、そちらでご確認いただければ幸いです。
20	p.28	p.13	昆虫館は圧倒的に3人以上グループの利用率が高い。ここにもっと言及すべき	<ul style="list-style-type: none"> ・3人以上のグループでの訪問の割合が多いのは橿原市昆虫館・おふさ観音と記載していますが、おふさ観音の37.1%と比較し、昆虫館は76.4%と倍以上の比率であることから、現在の表現を改めます。
21	p.30	p.16	ツアー客とそうでないのとの違いがわからないため、ここで言及されている傾向に偏りがある可能性がある。また、今井町を中心にしていないのは、最終章において、今井町への訪問数を増やせば周辺への訪問数も増える、ということをお願いしたいがためではないかと捉えられかねない。また、年齢別、家族などの構成別、男女別、日帰り宿泊別に、どんな傾向があるのかを示さないと、どんな観光傾向があるのか分からない。	本調査は、ツアー客・個人客問わず、各地点に訪れている観光客を対象に実施しました。別紙報告書には、回答者全体におけるツアー客・個人客の割合も掲載しております。回答者全体では個人客が大半を占めており、ツアー客に限定した集計をした場合、サンプル数が極端に少なくなってしまうことを懸念し、掲載は控えさせていただきます。また、その他ご指摘いただいたクロス集計等を掲載した別紙調査結果報告書や調査結果データにつきましては、インターネット等での公開を検討しておりますので、そちらでご確認いただければ幸いです。今井町は他観光地点との関連が大きい、ということが各訪問率から把握されたため、それを図式化する際にわかりやすくなるよう、中心に置いています。
22	p.30～31	p.16	実態に合っていない。 実態にあった表現が出来るよう工夫してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年8～11月に実施した動向調査の調査結果を、そのまま図示・掲載しています。
23	p.33	p.18	なぜここで4-4と同じ質問をしていないのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・動向調査、宿泊調査の中で、調査地点の前後に訪問した（する）市内観光施設と前後に訪問した（する）他市町村を同時に調査しています。
24	p.34	p.19	なぜ？というのはいないのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・p.9で来訪のきっかけを調査していますので、再来訪の理由について別に項目を設けて調査はしていません。
25	p.34	p.19	観光消費額 単位 円・%の追加	<ul style="list-style-type: none"> ・単位を追記します。
26	p.35	p.20	N値が低すぎるものがあり、それでは意味をなさない。満遍なく宣伝をした結果、市外からの参加率に差が出ているのであれば分かるが、そうでないのに観光振興に資するものかどうか判断できないはずである。市外率が高いものはすでに飽和している可能性もあり、ここはさらなる分析無しに断言すべきではない。	<ul style="list-style-type: none"> ・N値が低いものについては、解釈に注意が必要です。それらをふまえ、表現を改めます。

No	素案段階（パ ブコメ時）の ページ数	計画確定版で のページ数	意見内容	回答（市）
27	p.36	p.21	1 とのクロスチェックが欲しい。観光計画のための分析なのだから、市外から来ている人がなぜ来ているのかが知りたい。	市外からの訪問客に限定した集計をした場合、サンプル数が極端に少なくなってしまうことを懸念し、掲載は控えさせていただきますが、今後のデータ活用において参考にさせていただきます。 なお、調査結果データにつきましては、インターネット等での公開を検討しておりますので、そちらでご確認いただければ幸いです。
28	p.37～39	p.22～24	この計画になぜ必要なのか、意味がわからない。	・本市が観光振興を進める上で影響する観光産業の把握と、近隣自治体や本市と類似性のある自治体との比較するために必要です。
29	p.39	p.24	他の観光都市に比べて文化、スポーツが総じて低いと言わないといけないのではないかと？	・飲食サービス以外の分類では、いずれも他自治体と比較して同等若しくは低くなっており、特徴のある産業はあるとは言えません。
30	p.40	p.25	どういうウェブ調査かが分からない。対象や、調査への導入の仕方は？その時点でバイアスは掛からないのか？	・p.78に記載のように関西地方は意図的に5割程度のサンプル数を確保し、その他の地域は人口分布に合わせたサンプル数としたウェブ調査を実施しています。
31	p.40	p.25	そもそも飛鳥地方、大和地方という言い方はそこまでするだろうか？飛鳥、大和ではないかと？	・ここでは、本市区域を含めた地名の認知度を調査することを目的としたため、明日香村と混同される「飛鳥」を避け、また奈良県と同義に近い「大和国」と認識されやすい「大和」を避け、古代におけるヤマト政権の区域として想起される「大和地方」を用いています。
32	p.41	p.26	関東～5割を切っていますという文章は文脈からしておかしい。ここに関西を混ぜるのもおかしい。割と知られている、ということが言いたいがために日本語がおかしい。関東、中部では半数以上に知られています、くらいがいい。	・表現方法について見直し、修正します。
33	p.43	p.28	市民調査のやり方は？ギャップがある、ではなくて、ここでは市外からの認知度が市民のオススメ度を越えたものを列挙すべき。	・市民調査の調査概要は p.78 に記載しており、また最終的に公表する際には調査票を掲載します。 ・市外からの認知度が市民のオススメ度を越えたものは、実際に観光に来た際の満足度が低くなる可能性があります。また、市民のオススメ度が市外からの認知度より低い箇所については、おすすめしない理由について検討が必要であることを包括的かつ概観的に表現するため、ここでは「ギャップがある」と記載しています。
34	p.46	p.31	全体の調査方法や全体像が見えない。ボランティアや係員が聞き取って各形式にしていたところはないか？さらに、他の調査では意見を挟まなかったのに、なぜここだけ「考え」が記述されているのか？本来なら他のところでもちょこちょこ必要、もしくは全体のデータを出してから分析に進むべきである。	・調査実施概要については、p.76 で記載しており、また最終的に公表する際には調査票を掲載します。なお、同ページの備考に記載のとおり八木札の辻交流館は留め置き調査としています。 ・「更なる展開が期待される」という記述は、ご指摘のとおりここまでの分析方針とそぐわないため、修正します。
35	p.47	p.32	宿泊する人が一見さんが多いことを考えれば、期待以上との回答が増えることも予想でき、逆に日帰り客はいつもと同じものを得ようと来るリピーターが多いので期待通りという回答が多いのも当然に思う。よって、一見さんかリピーターかをクロスチェックしないとここに書いてある結論は出せない。	・リピーターであるかどうかについては、調査項目としていないためクロス集計結果を提示することはできません。 ・宿泊客がリピーターであるか否かにかかわらず、ここでは宿泊の有無及び宿泊場所による満足度の差を調査していることから、この分析で差し支えありません。しかしながら、今後の調査においては、リピーターであるかどうかについても調査項目とすることが望ましいと考えます。
36	p.49	p.34	文章に間違い。プラスの影響を期待してること「が」わかる	・訂正します。
37	p.51	p.36	民間組織との連携において、◎拡大、○現状維持、▲縮小、×廃止を論じる前に、官民連携の戦略・方針を述べるべき。	・この箇所において、縮小や廃止と評価された事業を民間が実施したとき、高い効果を得られる場合ももちろん想定されるが、ここでは、あくまで本市事業としての評価を行っているものです。 ・官民連携の戦略・方針に関しましては、第3章・第4章において、行政・民間事業者、事業者間の連携強化を図ることについて言及しています。
38	p.51	p.36	改めて評価を行なったのなら、その評価基準を明らかにしてほしい。新しいことをするなら古いものを消さないと人的リソースが足りない。その観点も入れて判断すべき。11-1 で述べられている事をここの判断で予断なく実施すべき。	・「新しいことをするなら古いものを消さないと人的リソースが足りない」のは、ご指摘のとおりだと考えます。ただ、評価基準に関しましては、本文に記載のとおり、従来の事務事業評価では評価し得なかった数値化できない項目なども考慮し、公共性や公益性なども含め総合的に判断していますが、評価手法については苦慮したことも事実です。 ・なお、縮小、廃止については評価理由について概述しています。
39	p.51	p.36	広告プロモについて 明らかに時代遅れのものが残っている（さらら姫とか）。また、100人の観光大使が何の役に立っているのか？少なくとも手放して OK が出せるものではない。他にも色々ある。雑誌広告や観光客誘致に問題ありとする論拠（費用対効果やその検証が難しいことなど）は、前述した事業に対しても同じことが言えるのは明白だ。この論拠に従うなら、他の事業は全て効果測定が容易で費用対効果が高いということなのか？専門家の厳しい意見を明記し、論考を加えた上で丸を付けるならいいが、これでは役所側が継続したい事業を追認するような結果になってしまう印象を受ける。	・前項でも回答していますが、当該箇所の評価基準に関しましては、本文に記載のとおり、従来の事務事業評価では評価し得なかった数値化できない項目なども考慮し、公共性や公益性なども含め総合的に判断し実施しています。 ・効果測定が容易でないことはご指摘のとおりであり、それらの点も踏まえて、本計画の策定に際しましては、観光基本計画策定審議会を条例に基づき設置し、有識者により構成される同審議会で公平かつ公正に審議・検討いただきました。

No	素案段階（パ ブコメ時）の ページ数	計画確定版で のページ数	意見内容	回答（市）
40	p.51	p.36	各種サービスについて ガイドがどれほど良いものなのか検証したことはあるのか？観光客や観光施設とのトラブル、苦情も聞く。現場調査をしてもいないのに現状維持でいいのか？ガイドは観光客に一番近い存在であり、ここで現状に対して容易な判断をするべきではないと思う。また、ミチモに関しては運営上の不透明さがあるにもかかわらず、中身について検証したのかが不明。値段設定も民間レンタルのガソリン車に圧倒的に負けており、なおかつ、冷暖房なく 2 人乗りと居住性も悪いというレビューもある。本当に検証したのか？ その他の項目についても同様。辛口なのとそうでないものとの差が激しい。人材育成で三角がついているものの内容と、他の項目で丸がついているものと、何の差があるのか？100 人の観光大使が丸で、観光アドバイザーが三角である差は何か？	<ul style="list-style-type: none"> ガイド業務の評価につきましては、記載している各観光施設においてガイドを配置し、説明や案内を行うことそのものについて行っております。ボランティアガイドについて個別に苦情等があることは承知しており、問題点や研修内容等については、ボランティアガイド事業を主催する観光協会と協力し改善に努めているところです。 MICHIMO については、事業そのものが交通行政所管部署において、「低炭素社会の実現に向け、電気自動車を導入し、観光面で運行させることで、多くの市民に対し、その有用性について広く啓発を行うこと」を主目的として実施されているものであり、観光利用は副次的な位置付けで、かつ、観光事業としての資源投入はないことから、市内の観光周遊の際の二次交通が十分とは言えない本市において、一定の効果はあると考えます。 観光アドバイザーは活用されていないアドバイザーも多く、活用時の報酬費や交通費などが必要であることから縮小と評価し、100 人の観光大使は名刺の印刷費以外に費用は不要であり、費用以上の pR 効果が確認できているため現状維持と評価されています。
41	p.51	p.38	広域的な取り組み 宮崎市観光団歓迎会が丸で、宮崎派遣や姉妹都市訪問観光団が三角で、宮崎物産協会歓迎会がバツなのは評価基準がバラバラであることが明白な事例。バツがついた論拠によれば、全部バツだろう。	<ul style="list-style-type: none"> 「宮崎市観光団歓迎会」につきましては、宮崎市からの観光団（＝観光客）を歓迎し、本市の pR に資するものであることから現状維持と評価され、「えれこっちゃ宮崎派遣業務」及び「姉妹都市親善訪問観光団事業」については、姉妹都市交流（企画政策課所管事務）の観点からは有益であるものの、観光行政の切り口からは効果を見込みづらいため縮小の評価となりました。 「宮崎物産協会歓迎会」は、上記の「宮崎市観光団歓迎会」と異なり、対象が本市に出店に来られた宮崎市の物産事業者であり、本質的には本市の産業振興の観点から実施されるべき事業であって、観光事業として継続する必要はないとの観点から廃止と評価されました。これは、「本市」の事業として「宮崎物産協会歓迎会」が不要ということではなく、「観光」事業として実施することに公益性が見出し難いことを意味します。
42	p.54 11-2	p.39	事業者ヒアリングの結果はどこに載っている？述べられていることは至極真つ当であるが、題名より内容が先行しすぎているので、題名に即した内容にしておき、結論は後の項目にすべき。	<ul style="list-style-type: none"> 事業者ヒアリングの内容を追記します。資料編に、主な意見を追加します。
43	p.54	p.39～40	課題まとめと可能性について－不要	<ul style="list-style-type: none"> 本市の観光行政における課題や弱みを把握し、それらを踏まえて今後の可能性を探っていくこと抜きに計画策定はできないものと考えます。
44	p.56	p.41～49	第 4 章基本的な考え方 1. 今なぜ－不要 2. 樞原市が目指す－必要 3. 基本姿勢－必要 4. 5. 6. －不要、この箇所は第 5 章で展開される。	<ul style="list-style-type: none"> 第 4 章（⇒第 3 章）基本的な考え方の構成を見直しします。
45	p.58	p.43	ここまで述べられてきたことは至極真つ当であるが、ここにきてその論拠が一気に瓦解する。データと根拠に基づくと言っておきながら、調査手法や内容、時期、調査数などの事実関係が全く示されずに考察を展開させていくのは、およそテーマに掲げた「データと根拠に基づく事業展開」を説く姿勢とは程遠い。	<ul style="list-style-type: none"> 観光実態調査等の今回実施した調査に係る調査表や調査結果について追記します。 また、本計画の策定後、根拠となった調査データにつきましては、申請手続きなどを整理したうえで一般公開することを予定しています。
46	p.58	p.43	全体を通じて感じるのは、なんらかの観光事業を税金を投じて市の役人が関わって実行していく、という姿勢である。前述した第 3 章 10 にて現事業の仕分けをやり切っていないから事業継続を前提とせざるを得ず、そのためにこの項目では行政の基本姿勢について述べるはずが、事業実行のやり方に重心が偏ってしまっている。基本計画を作るにあたっては、本当に役所が観光振興事業を主体としてやるべきか？も含めて問うべきで、その事が詰め切れていないために、次項の中身がゼロになってしまっている。	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり、原点に立ち戻り「役所が観光振興事業を主体としてやるべきか？」と問うことは重要であると考えます。本文にも記載のとおり、これまでは効果や目的を理解せず目先の実績を重視し、網羅的に観光振興を行ってきました。これを改善する必要は認識し、本計画においてもそのための取り組みを記載しています。しかしながら、これまでの経緯やそれによって成立している現状を直ちに改めることで起こりうる様々な側面での不要な混乱を避けるため、本計画では漸進的な対応を目指しています。 これらを踏まえ、このたび様々な調査を実施し、データと根拠に基づき、費用対効果を意識した計画とし、行政主導ではなく官民連携や観光振興を担う人材の発掘により民間主導の観光振興を目指すものとしています。

No	素案段階（パ ブコメ時）の ページ数	計画確定版で のページ数	意見内容	回答（市）
47	p.59	p.44	<p>主役は民間で、ということは単なる項目に収めていいものではない。行政の観光政策の根本を左右する重要なファクターであり、本当に民間の自立を後押しするのであれば、3-1 や 3-2 から続けて、ビッグデータ活用を見据えたインターネットによるデータ共有化などへの言及があって良いはずである。しかしながらそうした具体的内容が少しも無い、ということは、計画を作る当事者の頭には、行政が主導するかつての観光政策の形しか思い浮かんでいない事が示唆されているように勘違いされてしまいかねない。以降の章を読んでいくと、10 年に渡って行う事業が列挙されていく。これを読めば、行政主導で行う内容を今後の予算執行根拠のために並べたという風を受け取られかねない。</p> <p>3 は計画の方向性を定めるものであり、第3章 10 の再検討や海外事例、樞原市や行政スキル、樞原市が持っているデータ量の現状を踏まえて再度、検討し直すべきだと考える。おっしゃっている内容はしごくまともな内容であると感じるが、特に 3-3 は強くそう感じる点もあり、これまでの観光行政から一線を画すものであると強く評価したいのだが、もう少し具体的な部分がないとかけ声だけに終わってしまう可能性がある。特に、民間の後押しをする部分を客観的に評価できる仕組みがないと、行政内での内部評価につながらないのではないか。</p> <p>個人的には、樞原行政にはデータが無さすぎると感じている。観光政策にどういったデータが必要か、どれほどの頻度で必要か、どのように集めるべきかを試行錯誤し、継続させてデータを集める事が先決だと考える。税金で集めたデータにもかかわらず行政が死蔵するケースが多く見られるが、こうしたデータを継続してオープン化し、市民が自ら活用できるような仕組みも必要である。端的には観光は商売であり、個人利益である。みんなの税金を個別事案に使うことは許されないで、行政主導の観光事業が儲ける事を主にして実行されないことは明白である。この構造的な問題があるゆえに、観光事業としての魅力に欠けたり、民間との協業が上手くいかなくても仕方がない。結論として、行政が主導して実行すべき観光事業は広報プロモーション、文化スポーツ関連の公的施設有効活用、民間が活用できるデータ収集とオープン化の継続、情報収集を徹底して国や県の補助金紹介と申請補助、または市民の活動場所の予約や調整を行うことと考える。市としての事業を行いたいのはこれまでの流れから理解はできるが、すべきではない。データの重要性を大切にすれば、下手に動くよりはデータ収集を目的とした事業を数年は行い、傾向や新たな観光の芽を掴む事に専念してほしい。以上をまとめると、観光を行政が主導するのか、民間主導を支えるのか、いずれか旗色を鮮明にした上で、3 を書き直してほしい。「樞原市では民間主導は無理だ。少なくとも今は無理だ」という考え方こそが、データ死蔵や民間未育成を促進してきたのである。あくまでも計画なので、ここは理想形を記していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> このたびの様々な調査データは、本計画の策定後、申請手続きなどを整理したうえで一般公開することを予定しています。業種やターゲットとする顧客に応じ、民間事業者自らがデータ分析し新たな事業展開に繋げていただければと考えています。 「民間の後押しをする部分を客観的に評価できる仕組み」の必要性は認識しているものの、現時点では評価の枠組みを確立できておらず、今後の試行錯誤の中で、本計画の年次評価・進捗管理に係る有識者会議などの場において構築して行きたいと考えています。 「行政が主導して実行すべき観光事業は広報プロモーション、文化スポーツ関連の公的施設有効活用、民間が活用できるデータ収集とオープン化の継続、情報収集を徹底して国や県の補助金紹介と申請補助、または市民の活動場所の予約や調整を行うこと」が重要であるのはご指摘のとおりです。これらに加え、行政として実施すべき事業としては、遊歩道や観光トイレ・案内看板などのインフラ整備、町並み保存や歴史的風景の保存などを目的とした景観規制や自然保護、行政が率先して取り組まなければ手遅れになってしまうような文化遺産の保存、コンベンションや合宿旅行などの誘致活動があると考え、本計画を策定しています。
48	p.61	p.46	この項目は苦しい。「しかしながら行政の過剰な関与は～」と書かざるを得ないのは、行政主導に傾いてしまう懸念を自覚しているからだ。そうならないような仕組みを構築すべきであり、それを念頭に 3 の内容を再構築してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> この項目に限らず、観光事業は行政主導に傾きかねないこと、またそれをいかに回避するかを念頭に本計画は審議され、策定作業が進められています。また、これらを踏まえ、官民連携の中から、やる気のある地域の人材・事業者を発掘し、積極的に支援できるよう努めます。
49	p.62	p.47	フェーズ名とメインターゲットが合っていない。中南和地域としての認知度向上を言いながら、メインターゲットに女性が入っていないのはどういうことか。それこそ、3-1 の「なぜするのか」を確定させていないのではないのか？そもそも、圧倒的に多い日帰り客がターゲットにされていないのは何故か。現時点でのメインターゲットは今来てくれているお客さんなのではないか？さらに言えば、3 フェーズに分ける理由が見えてこない。SNS による発信などは全てのフェーズでやるべきであり、効果測定期間としての設定以外にフェーズを分け、それぞれでキャッチフレーズを掲げる合理性がない。データや地元の意見を基に、キャッチフレーズとなる観光の柱を定めておらず、やるべき事をやっていないだけではいられないだろうか。単に、地域から県外へ、県外から国外へと認知率を高めていく、という目標を示すためだけにフェーズを分けてしまうと関係者毎に捉え方が違って計画へのイメージ共有をかえって妨げる事になりかねない。ここはシンプルに示してほしい。カッコだけのロードマップは要りません。基本戦略の中身は、これまでの継続事業に新しいことを付け加えているだけで、これでは人的リソースが足りなくなり、結局は外注になってしまう。現時点で既に外注が多く、これでは地元の民間を育てる事につながらない。	<ul style="list-style-type: none"> フェーズ 1 の期間中で女性やファミリーをターゲットとしないのではなく、SNS に関しても現在発信しているものの更なる拡大を考えています。 誘客活動やプロモーション活動を実施する際には、重点を置くターゲットが必要であり、フェーズ 1 の重点施策である宿泊客と今井町の訪問者の増加は、観光消費額と市内及び飛鳥地方への周遊客の増加に波及する効果が高いものであることから設定するものです。
50	p.68～p.87	p.53～72	フェーズ分けして「実施内容」が記されているが、「誰が」実施するかの「主語」がない。観光振興に必要な活動を自治体が全て実施する必要は全くないが、「取り組みのスケジュール」を見ると、全てを樞原市が予算を確保して実施するかのような書きぶりになっている。官民連携・役割分担が見えない。	<ul style="list-style-type: none"> 本市の観光基本計画ですので、実施主体はすべて樞原市です。ただ、ご指摘のとおり、観光振興を進める上で民間事業者との連携は不可欠であり、p59 (3)自立した「民」を後押しする連携においても記載しておりますが、市民・事業者主体の自立した活動の活性化が観光振興の主眼であると考えております。
51	p.72	p.57	天の香具山と藤原京の認知度向上を目指す。 新ホテルの開業により、日帰り観光客から宿泊観光客を増加し、観光産業の強化をはかる事が重要、藤原京の周辺の整備を行い、休憩、飲食、トイレ、土産等の物販施設の設置、藤原京北側道路は狭くて、危険性があり気楽に散策も出来ない拡張を要す。滞在型の観光客誘致をする為に明日香・高取の観光ルート設定も必要。	<ul style="list-style-type: none"> 香具山や藤原京は紀紀万葉に由緒が深く、本市においても貴重な観光資源であると考えています。 また、そのために、観光事業として認知度向上やハード面の整備に努めるよう記載しています。

No	素案段階（パブコメ時）のページ数	計画確定版でのページ数	意見内容	回答（市）
52	p.73	p.58	観光はそもそも民間ビジネスであり、行政の役割は調整であろう。とすればこの部分はずっと充実すべきである。例えば表の最後に「各種イベント・行事への支援」の記述があるが、民間の団体や事業者を本当に官民連携のパートナーと理解しているなら、「補助」「支援」、というような「上から目線」の発想は出てこないはずである。	<ul style="list-style-type: none"> 観光事業の主体が民間ビジネスであることに異論はありません。 この箇所においては、具体的な事業として「補助金・助成金の交付」であったり、「各種情報・データの提供」などの行政でしかできないバックアップを想定していることから、「補助」「支援」の用語を使用しており、高圧的な上下関係の文脈で用いたものではありません。
53	p.74	p.59	「日本一美しいまち」への取組みについて、隣村の明日香村と比較して景観美化レベルが低い。藤原京周辺道路を見てもポイ捨てゴミが目立つ。いつ、誰が、どのように実施するのか不明。市域を巡回点検するクリーンパトロールカー等の発足を行い、東西南北の4ブロックに分けて行き、美観度の向上を図る等、効果的な対応が必要。	<ul style="list-style-type: none"> p.59 景観整備推進の項目において景観美化事業の実施として記載しています。景観美化が観光客の誘致にとって非常に重要な項目であることは間違いなく、景観行政・道路行政と連携しながら環境・景観整備の推進に努めてまいります。
54	p.82	p.67	ターゲットは分け方に根拠がなく意味不明。宿泊客にも複数層があるはずなのに、一緒くたにして良いのだろうか？計画立案にあたってデータが不足しているのは明白であり、不足分を充足させるまでは、ここは性急に決めるべきではない。また、女子も全てが女子ではないし、ざっくりやり過ぎてて手抜き。データ不足分を充足させるべし。外国人については言語環境の整備など基本的なところでいいと思う。体験プログラムについては現状、費用対効果が低いところに事業補助をしている可能性があるが、その点の考察が不足している。民間事業者は今井町などの施設を安く貸すことで事業を促進するような考え方が必要ではないか。ファミリー層への考察が薄すぎてビックリしてしまう。まさか県内や関西一円から来てくださっている家族連れの方々は無視していいというわけではないだろう。この層はほっといても来ると思っているのだろうか？商業施設に来ている家族づれを周遊させりゃいいだろ、というのは計画案を読む限りデータに基づいていない主観的考察に過ぎず、やり直し。計画を求めている役所へのウケ狙いで「女子」「インバウンド」とか言ってるやいいのではなく、実際のデータに基づいた考察こそが真の観光振興に繋がるのであるから、項目最後になって息切れのような手抜きはしないでいただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 複数層の宿泊客の分析やデータ不足分の充足につきましては、本計画の年次評価・進捗管理に係る有識者会議などに諮った上で、適宜修正をしていくことを想定しています。 本計画への記載に際しては、「女子ターゲット」「外国人ターゲット」といった簡単な表現であることから「女子」や「外国人」を包括的にターゲット設定しているように見受けられるかもしれませんが、それぞれ「取組の根拠」や「留意事項」に設定理由を詳述しています。 ファミリー層についての分析や取組のスケジュールも、継続的なデータの収集・分析を実施し、適切な手続きを経て、適宜修正していくこととします。
55	p.85	p.70	コアなファン確保と継続的ファンづくりとある。歴史や考古関係層が観光の中心であることは認めるが、それだけではないことはデータでも明らかである。夏のプールを足せば圧倒的に家族づれも観光の中心の1つになるのである。ここに歴史や考古関係以外のキラコンコンテンツ、プールや昆虫館が入っていない事に疑問を覚える。昆虫館については第3章 4-3-1 にてリピーター確保策が必要と言及しておきながらこちらでは何も触れないというのは、計画案全体を俯瞰した構成がなされていないことを意味している。	<ul style="list-style-type: none"> 樞原総合プールや昆虫館は、ファミリー層をターゲットとして考えた場合、非常に魅力的なコンテンツであると考えていることから、本項目について見直します。
56	p.87	p.72	継続的調査については同意。しかしながら、この計画案を作るにあたってなされた調査内容に不足がある。この点を踏まえて、どういった項目による調査が必要なのか、具体例を列挙しておくべきである。	<ul style="list-style-type: none"> 現段階で記述可能な範囲で、基本戦略6の施策内容に記載しています。
57	p.88	p.73	市役所が観光事業の主体者となる構成の描き方では、これまでの観光政策の進め方となんら変わりが無い。計画案が示したい方向性からすれば、個別の観光事業について市はサポート役であり、観光事業全体についてはあくまでもワンプレイヤーであることを明記すべきではないだろうか。また、データの公開と共有を徹底することを明記すべき。	<ul style="list-style-type: none"> 市の策定する計画において、民間事業者が主体となる事業を一方向的に記載することはできないため、本計画で規定する事業の実施主体は、すべて樞原市です。ただし、観光振興を進める上で民間事業者との連携は不可欠であり、行政主導ではなく民間主導の観光振興を進められるようサポートに努めます。 本計画の策定後、根拠となった調査データにつきましては、申請手続きなどを整理したうえで一般公開することを予定しています。
58	p.90	p.75	<p><フェーズ1における代表的な成果指標>だけを述べるだけでは全く足りない。せつかく第5章に基本戦略1～6を示しているのであるから、それぞれの数値目標を設定すべきである。論理的には6つの各戦略ごとの目標が成就出来て、その結果として全体の目標が達成される、ということになる。またフェーズ2、フェーズ3の指標と数値目標も設定されたい。</p> <p>90ページに示された2つの指標は全体の目標達成状況を計るものにすぎない。なぜ戦略項目ごとの指標が必要なのか、その理由は「樞原市の努力」と「目標達成」の因果関係を明らかにするためである。</p> <p>極端な事を言えば、観光バブルが起きて、自治体も市民も何の努力もしていないのに、全体目標が外部要因により達成されることがあるかもしれない。そして観光バブルがはじけると樞原市の観光パフォーマンスは全体目標を大きく下回ることになる。この場合、戦略1～6に基づく努力と成果があると、再度盛り返して目標達成の可能性はあるが、そうでない場合は二度と立ち上がれない。県内の例としては1971年NHK大河ドラマ「春の坂道」放映で柳生に起きた観光バブルがある。戦略も努力も連携もなく、やってくる客をさばいっただけで、数年するとまた閑散とした田舎に戻ってしまった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本戦略1～6すべてに数値目標を設定することは困難です。また、数値目標を設定することで自縄自縛となり、数値達成すること自体が自己目的化する失敗例は日本全国で見られます。このように市民の皆様の税金を蕩尽する手法は、本市の目指す観光振興の在り方ではないことから、あえて数値目標を設定しないものもあります。 第1フェーズの重点施策として数値で測ることができるものがp.75の2つの指標であり、宿泊客と今井町の訪問者の増加は観光消費額と市内及び飛鳥地方への周遊客の増加に波及する効果が高いものであると考えたことから、設定したものです。 「目標が外部要因により達成されること」などの孕む危険性なども、上述した「数値達成すること自体の自己目的化」に含んで解釈しており、これらの状況を回避するために数値目標を設定していませんが、条例に基づき設置する予定の有識者会議によって、年次評価や進捗管理を厳密に行っていくことを想定しています。

No	素案段階（パ ブコメ時）の ページ数	計画確定版で のページ数	意見内容	回答（市）
59	全体について	全体について	<p>樫原市そのものの売りの部分（価値）が画一的な見方しかできていないのは残念です。観光を通じて、こうしたいという目的がもっと明確になればと思います。観光について、樫原市という地域の個性が打ち出せていないなあという感じです。それはどこに比重を置くかと言うことで、どうも網羅的で、分散的な書き方になっているように思います。樫原市として、我々は、こう発信していく、こういう目的でいうところでは、観光が必要だから、外国人が多くなってきたから、地方再生だから、法ができたから、などなど後付けでなく、主体的に。どこの市でもおんなじ程度のもになってしまう。</p> <p>個性をどうつくるか価値づけるかですが、ここが弱いところだと思います。例えば樫原市内の観光遺産について、樫原市としてどのような価値観を持って取り組みたいか。またそれぞれとだから協力して取り組みたいという価値観を共有できたらと思います。</p> <p>樫原市は、非常に重要な世界に発信できる観光資産があります。これをどのように発信し価値付けするか大事なところだと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでの本市の観光行政は確かに網羅的で重点が定まっていませんでした。この観光基本計画は、様々な観光実態調査を分析した上で、今後の事業を系統化し的確なターゲットに向けての観光戦略であると考えています。 ただ単に、本市を訪問する観光客数の増加だけを目指すのではなく、フェーズ1の重点施策において観光消費額と市内及び飛鳥地方への周遊客の増加に波及する効果が高いものを設定し、本市の特徴を活かした計画であると考えます。
60	全体について	全体について	<p>資料は拝見しました。現状は公表されている統計の数値の通りでしょう。現実には八木駅周辺を歩けばどのような観光客が多数来県されているのか。また、奈良市内に行けば国内・海外からの来県者が多数街を楽しんでいるのかはよく分かります。樫原に来られる観光客の内容を大きく変える事が出来るのかというと、樫原市にあるものを変える事は出来ません。むしろ変えずに残す事は大切です。近隣住民のリピーターを大切に、初めての方に分かりやすいマップの配布。便利な施設やタクシー乗り場が限られていて、年配の方が駅までの距離を遠く感じているのは現実です。少し休みたくとも入りやすい喫茶店もない。食事でのメニューに地元の食材等が使われているお店があるのかどうか、手ごろな価格での提供があるのか。海外からの観光客を対象にするのであれば、少なくとも英語表記メニュー、ハラルフードの表記等が店の外から分かるようにあるのか。商工会議所に補助金等出しているのであれば、当然に実行される事です。新聞で最近、葛城市が相撲の資料館で5か国語対応のタブレットを準備して5台で360万円の費用（数字は正確では有りません）高額かどうかは利用者数により判断が分かります。魅力創造部 観光政策課の方は勿論の事、樫原市役所の職員は全員、観光都市を目指すのであれば、少なくとも中学生・高校生クラスの英語でも樫原市の交通・地図・簡略な歴史・文化的な内容を説明出来るようにして頂きたいと思います。個人の努力で。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本市の観光パンフレット、観光マップ、今井町グルメマップなどは日本語版だけでなく、外国語版もご用意し、今井町グルメマップにおいては外国語対応の不可や外国語メニューの有無についての記載もしています。また、観光施設や観光トイレなどの各所に Free Wi-Fi を設置し、さらに観光 Hp の外国語版も作成、観光看板への外国語表記など外国人観光客への対応しており、今後も継続して取り組んでいくことを予定しています。 平成 27 年度から観光政策課において CIR（国際交流員）を登用し、また、平成 29 年 4 月に開設しましたインフォメーションセンター神宮前においても、外国語対応のできる職員を常駐させています。 今後は観光政策課職員のみならず、市職員全体の語学レベル向上に努めます。
61	全体について	全体について	<p>樫原・桜井・飛鳥・吉野などと協力して観光客の誘致を目指してほしい。 日本文化発祥の地として国内外での知名度をUpさせてほしい。 (地域限定ガイド、古民家活用、ホームステイでの異文化交流など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 樫原市が目指す観光のあり方において、中中和地域の観光拠点としての立ち位置の確立を掲げており、交通立地や宿泊施設を活かして周辺地域と連携を図ります。 平成 29 年度に実施する事業として、飛鳥認定通訳ガイド育成や住宅担当部署による空き家対策事業、県のインバウンド事業として草の根ホームステイ事業などが予定されています。